

日本語教育研究センター (RCJLE) 主催 ワークショップ 「動機を高める授業と教材作成 ——インストラクショナル・デザインの手法を生かして——」

田中 和美

2015年1月21日(水)、ワークショップ「動機を高める授業と教材作成——インストラクショナル・デザインの手法を生かして——」を開催しました。講師には日本におけるインストラクショナル・デザイン(ID)の第一人者であり、かつICUの卒業生でもありません、熊本大学大学院教授・教授システム学専攻長、鈴木克明先生を迎えました。

当日は、雨模様の寒い日にも関わらず、事前申込者と当日参加者を合わせて学内外から65名の参加となりました。大学レベルの日本語教育に携わっている方だけでなく、英語教育、継承語教育、対象も年少者や成人と、多様な背景の方々が集まり、盛会でした。午後3時15分から5時半のあいだに、講師によるレクチャーと個人ワーク、グループワークとがありました。グループは、事前申し込みの情報により、背景の似ている方4人で1組のグループにしておきました。インストラクショナル・デザインとは授業設計、教育設計、教育デザインなどとも呼ばれ、「教育活動の効果と効率と魅力を高めるための手法を集大成したモデルや研究分野、またはそれらを応用して学習支援環境を実現するプロセスのこと」を指します。IDの研究は欧米では50年以上の蓄積がありますが、日本では2000年ごろからe-learning普及とともに注目を浴びるようになりました。最初のアクティビティーでは、授業に関する悩み/問題を個々に書き、グループで共有しました。その問題を解決する手法としてARCSモデルについてのレクチャーがありました。ARCSモデルとは、John Kellerが学習意欲の停滞の原因から動機付けのために考案したモデルで、Attention〈面白そうだな〉、Relevance〈やりがいがありそうだなあ〉、Confidence〈やればできそうだなあ〉、Satisfaction〈やってよかったなあ〉の頭文字です。実際にグループから出た事例を、鈴木先生が分類してみせました。その後、持参した教材などについて問題を提示し、グループでARCSモデルを用いて解決方法を考えました。2時間ほどはあっという間に経ちました。IDの基本である概念といくつかのモデルを俯瞰した程度でしたが、ARCSモデルは特に理解しやすく、自分でも使えそうだなと思った方々が多かったのではないのでしょうか。ワークショップ終了後は、茶話会を開き、有志25名ほどが講師の鈴木先生を囲んで、懇談しました。

このワークショップは日本語教育研究センター(RCJLE)が学内の研究所・センター特別共同予算を申請し、実行の運びとなりました。また、録画しましたので、レクチャーについては今春ICUホームページのOpen Course Ware(OCW)から学外にも無料で公開されます。

出典：鈴木克明(2002)『教材設計マニュアル』北大路書房

1. 研究例会など

日本語教育研究センター主催ワークショップ

『動機を高める授業と教材作成—インストラクショナル・デザインの手法を生かして—』

鈴木克明氏

2015年1月

2. 教職員一覧

日本語教育研究センター教員（教養学部と兼任）

日比谷潤子

佐藤 豊

田中 和美 日本語教育課程 主任、日本語教育研究センター長

2014年度夏期日本語教育ディレクター及び『ICU 日本語教育研究』編集委員長

半田 淳子

鈴木 庸子 2014年度夏期日本語教育教務主任・『ICU 日本語教育研究』編集委員

平田 泉

尾崎久美子

金山 泰子 日本語教育課程 副主任

小澤伊久美

松井 咲子

根本 愛子

桜木ともみ

日本語教育研究センター研究所助手

篠原 将成

ジョーンズ テニール

斉藤 みか

日本語教育研究センター嘱託

朝倉 怜子 日本語教育研究センター事務